



財務モデリング講座
ケース「エスプレッソマシン」
第6回

PL モジュールの構築法 (3) (復習)

- モジュールを素早く効率的に構築するためには他のモジュールを行ごとコピーして再利用する
- **フラグを使用する際には、項目に適切なフラグを吟味する**
- 条件分岐については IF 関数の中に直接条件を記述せず、必ずフラグを使って計算する

第6回目講義のトピック

- 名前の定義の活用

名前の定義の運用まとめ (復習)

- モジュール/シートをまたぐ参照を行う際に必ず名前の定義を使用
- 名前の定義のルールは
(EntityName).ItemName.PeriodGranularity.NameType
- 名前を付けたいセルの範囲の右にテキストを入力し、セルの範囲 + テキストの範囲を選択して **Ctrl + Shift + F3**

アウトプットシート > 計算シート

実演

計算シート > インプットシート

実演

モジュール -> モジュール

実演

フラグ

実演

名前の定義を早く入力するコツ

- = の途中でテキストのポップアップが表示される
- 候補が絞られた段階で、名前を選択し Tab キー

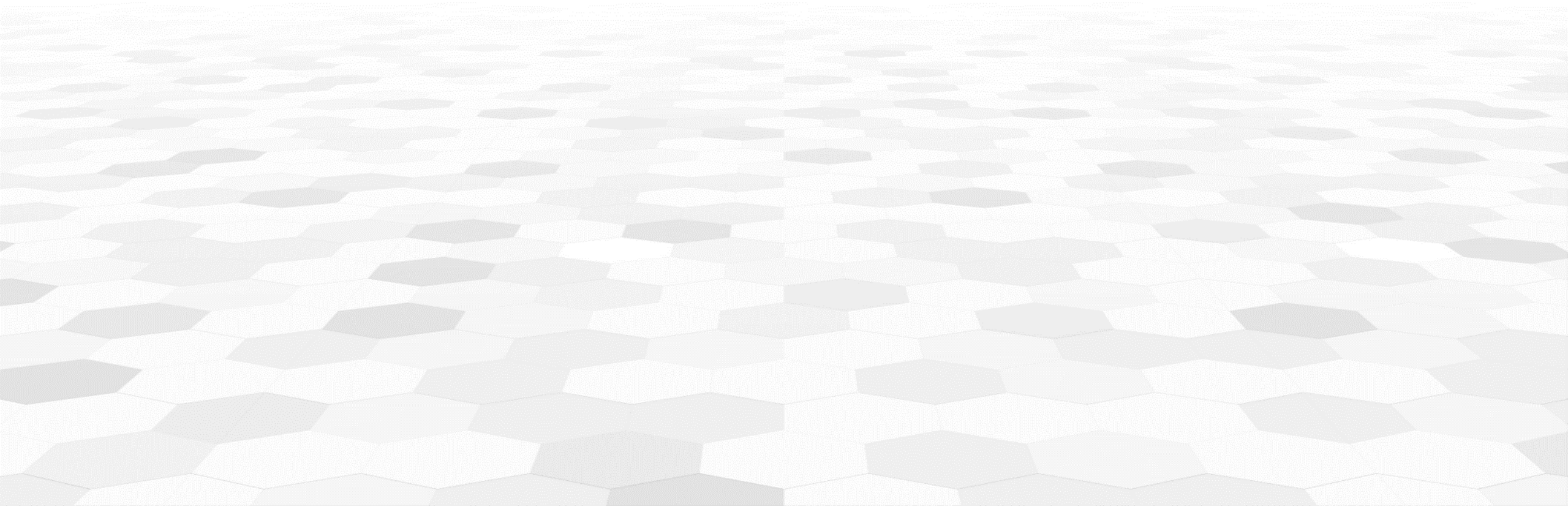
名前の定義を使用する際の注意点

- Excel のバージョンによっては @ を付ける必要有り
- 名前の定義を使用する列を一致させる必要がある

講義まとめ

- 財務モデル構築において名前の定義の活用は非常にメリットが大きい
- シート間・モジュール間だけでなく、フラグの構築において **Template Model** 内で定義された名前の定義が利用できる
- = の後にテキストを入力することで、対象のセルを探すことなくリンクを参照でき、Tab キーで一括入力ができる

質疑応答 - Q&A





財務モデリング講座
ケース「エスプレッソマシン」
第6回

終了